

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 10 月 5 日

【評価実施概要】

事業所番号	3873300283		
法人名	医療法人 辻井循環器科内科		
事業所名	グループホーム つじい		
所在地	東温市田窪253番地 2	(電 話)	089-964-7321
管理者	辻井 浩子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 8 月 8 日	評価確定日	平成 19 年 10 月 9 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 7 月 21 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 6 月 16 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 16 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	19.5 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円
敷 金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 7 月 21 日事業所記入)

利用者人数	26 名	男性 8 名	女性 18 名
要介護 1	1 名	要介護 2	4 名
要介護 3	5 名	要介護 4	9 名
要介護 5	7 名	要支援 2	名
年齢	平均 84, 1 歳	最低 55 歳	最高 98 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	あり	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園地帯にある2階建てのホームである。ホームは医療機関を母体として開設して8年目を迎え、玄関や庭の草花・樹木の中で落ち着いたたたずまいを有している。運営者の地域医療への思い入れで開設したホームだけに、利用者の健康管理や医療支援には特に力を入れ、必要な利用者には同系列の施設でのリハビリを行ない、利用者の重度化や終末期の対応も行っている。職員は利用者の思いを尊重しながら、共に歌や野菜づくり等を楽しみ、時には調理法を教わりながら暮らしている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)

前回評価をふまえ、理念の見直し、利用者の生活歴の記録様式の検討、全職員での成年後見制度の学習、事故報告書の様式の検討、相談・苦情窓口の公的機関の明記…と積極的に改善に向け取り組んでいる。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)

運営者、管理者、職員は評価の意義を十分理解し、今回の自己評価も全職員で話し合いながら、まとめている。そして、職員は自己評価は日頃のケアの振り返りにもなると評価を前向きに捉えている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)

運営推進会議は2か月に1回行われている。会議の内容はホームの活動報告後、それに対する出席者の評価、助言、要望及び前回からの継続課題の検討等である。会議での助言、要望、決定事項はホームの運営や支援に活かすよう取り組んでいる。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)

利用者の暮らしぶりは、家族の面会時や手紙とホーム便りを毎月家族に送ることで報告している。そして、家族の意見等は家族の面会時、介護計画作成時及び運営推進会議に家族が参加した時等に伺い、運営に反映させている。苦情・相談窓口は内部及び外部の公的機関を明記し、家族に説明しており、また意見箱を設置している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)

ホームは自治会に出席し、敬老会や地方祭、亥の子等の行事にも参加している。地元の人々とも交流があり、収穫した野菜や手作りの置物をいただくこともある。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームつじい

(ユニット名)

西館

記入者(管理者)

氏 名

辻井浩子

評価完了日

2007年7月20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 理念に地域密着したグループホームを目指すことをあげ、実践を促している。 (外部評価) 利用者の思いを尊重し、地域で暮していくことを意識した理念である。この理念は各ユニットの居間に、分かりやすく、倫理綱領等と共に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ホール内に掲示しミーティング等で促し、管理者と話し合いを行っている。 (外部評価) 管理者と職員は、利用者の支援にあたり、理念を意識して実践するよう心がけている。また、支援の振り返り時にも理念と関連づけることにしている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 各館見えやすい所に掲示し、家族や地域の方に尋ねられても説明出来る様に心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 農作業を手伝ってくださったり、「いのこ」の子供達を連れて来てくださったり、親睦関係がある。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地方祭、敬老会などに声を掛けてくださっている。2ヶ月に1回地域の方と連絡協議会を開いている。 (外部評価) ホームは自治会に出席し、敬老会、地方祭、亥の子等の行事にも参加している。地元の人々とも交流があり、収穫した野菜や手作りの置物をいただくこともある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 介護教室など市町事業を協力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価を受けた事に関して、話し合い今後更に精進していくことを職員同士で再確認しあっている。 (外部評価) 運営者、管理者、職員は評価の意義を十分理解していて、前回の評価をふまえ、改善にとりくんでいる。また、全職員が関わって自己評価を行うことで、日頃のケアの振り返りができると考えている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営委員会で出た貴重な意見を取り上げ職員間で話し合っている。また、報告書を作成し会議参加者に配布している。 (外部評価) 2か月に1回、運営推進会議を行っている。会議には毎回違う利用者と家族が出席することになっている。そして、多くの利用者や家族が会議について理解し、意見を述べる機会としている。会議での意見等はサービスの質の向上に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 同一事業所内なので十分連携が図れている (外部評価) 市からホーム関連の業務を委託された地域包括支援センターが近くにあり、このセンターと連携することで、サービスの質向上に取り組んでいる。利用者の諸手続きで市に出向き、話し合うこともある。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、学んでいる。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会の参加し、資料に職員全員が目を通し高齢者の方の尊厳についての意識を再確認しあっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約、解約の際は管理者、ケアマネや現場の職員が詳しく説明をし質問にも対応している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付は管理者が対応している。相談、苦情内容は管理者、計画作成担当者間で報告しあっている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 月に一回個人状況を書いたお手紙を送っている。面会時に日常の様子をお話している。お小遣い帳のコピーを手紙と一緒に送付している。 (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態及び金銭出納帳・領収書のコピーを毎月家族に送付している。また、月刊のホーム便りも家族に送っていて、この紙面で異動職員の紹介等も行っている。家族の面会時にも報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付は管理者が対応している。相談、苦情内容は管理者、計画作成担当者間で報告しあっている。 (外部評価) 家族等の意見は、面会時やご意見箱、介護計画作成時や運営推進会議に家族が参加した時に伺い、運営に反映させている。苦情・相談窓口は内部及び外部の公的機関を明記し、家族等にも説明している。家族会は家族の参加が得られず、開催していない。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者と職員間で、ミーティングや申し送りで意見する場や話し合いの場を多く持っている		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者さんの状態等により勤務時間の変更や勤務体制を組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 必要最小限に職員の移動は抑えて勤務を組んでいる。 (外部評価) ホームは職員の異動を最小限にしたいと考えている。異動の時は、離職者と採用者の重複勤務を行ったり、ケアの方法等を確認し合うことで、利用者へのダメージを防ぐよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ミーティングやカンファレンス時に対応方法など助言し、勉強会も行っている。外部の研修会にもどんどん参加している。管理者が直接指導することもある。 (外部評価) 運営者は管理者や職員の育成に学習が大事と考えていて、ホーム内での月1回の勉強会や外部での研修会参加を奨励している。外部での研修会は職員の希望を重視し、参加を勧めている。研修終了後は報告書を提出し、他の職員にも伝達している。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 各種講習会や勉強会の案内には積極的に参加し報告会も開いている。お互いに意見交換を行い交流を深めている。 (外部評価) 管理者や職員は、地域の他ホームと見学し合うことで相互評価を行い、学習したことを日頃の支援に役立てている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 勤務時間以外に電話や会食等で個人的に悩みの聴取を行っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員同士、お互いが協力し合い時には競い合って働けるような勤務体制を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) まず本人の話をよく聞き、相づちを打ち、こちらでも理解している事を分かってもらうようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 管理者やケアマネ、現場の職員等と家族間で綿密にモニタリングを行い家族の方の不安や心配事を聞き取るようにしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族さんの質問や相談内容にはその日のうちに返答が出来る様に迅速に対応している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ショートステイをまず利用し雰囲気を見てもらったり、デイケアを利用していた時の顔なじみの職員が対応したりし不安感が少しでも緩和されるように対応している。 (外部評価) 入居に先立ち、同系列の事業所のデイサービスやショートステイを利用して、集団で過ごす雰囲気に慣れてもらう工夫をしている。入居後も、全員で食事することに戸惑う利用者には居室で食べてもらう等の配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 一緒にお菓子を作ったり、料理を教えてもらったりと共に生活し楽しみや喜びを分かち合える場面を作っている (外部評価) 職員は利用者と共に、歌ったり、野菜作りや家事を楽しみながら行っている。時には利用者から調理の仕方やコツを教わる等して、一緒に料理を作っている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホームの行事や運営推進委員会の参加の声をかけを行っている。面会時に利用者さんの普段の生活を報告したり、手紙にて月に一回報告している。日々の生活を書いた手紙を送っている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者と家族との交流支援を行っている。気軽に訪問できる雰囲気作り、ホームの行事の参加や歓迎、関係再構築の支援を行っている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者さんの生活暦を本人や家族から聞き、把握しそれを中心にした話題やお楽しみ会を開いたりしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者一人一人の性格を判断し、仲良くコミュニケーションを取れる場面が多くもてるように配慮している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 利用終了の際も、きめ細かく引継ぎ説明しアフターフォローにも気を付けている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 何事に関しても出来る限り利用者さんに選択してもらえるように心掛けている。		
			(外部評価) できるだけ利用者が選べる場面づくりを心がけ、希望を出してもらおうよう努めている。テレビの画面を見ていた利用者が「たこ焼きを食いたい」と言うと、職員が「次は、たこ焼きを作ろう」と答えていた。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者さんの生活暦を把握し、それを中心にした話題や話し掛けを行ったり、お楽しみ会や誕生日会に盛り込んでいる。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個人毎にADL表やフェースシートを作成し、全員が目を通せるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月おきに（入退院などがあればその都度）ケアプランを見直している。その際は管理者、主治医、ケアマネ、介護職、時には家族さんも出席し話し合っている。		
			(外部評価) 介護計画は入居前の事業所の介護要約、生活歴などを参考に、職員による話し合いで作成している。利用者にも参加を促し、前もって家族にも連絡して、話し合いに出席してもらうよう努めている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 入退院などがあればその都度ケアプランを見直している。その際は管理者、主治医、ケアマネ、介護職、時には家族さんも出席し話し合っている。		
			(外部評価) 介護計画の見直しは3か月に1回行っているが、利用者や家族の状況が変化した場合はその都度見直し、現状に沿った計画を作成している。	※	介護計画は利用者や家族の状況が変化した時に見直す他、安定している利用者の場合も月に1回程度は、新鮮な目で状況を確認し、見直すことを期待する。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日、職員が利用者一人一人の経過表やカルテを記入し、全員が状況把握に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人や家族さんの希望で、歩行訓練や立位訓練、生活リハビリを目的としてデイケアにお連れしている。		
			(外部評価) ホームは利用者の受診時の送迎、急な外出への対応、胃ろう設置に伴うケア、重度化への対応等の多機能性を活かした支援を行っている。	※	多機能性を活かした支援とは多種類のサービスの提供だけではなく、利用者や家族の暮らしの継続性を守る柔軟な支援であるので、日々変化する利用者や家族の状況に応じた、更なる支援を期待する。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 防災訓練の際には東温消防署から隊員の人に来てもらい講習を受けたり、民生委員の方には推進運営会議に毎回参加してもらったりしている		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他事業所とも連携を取り、福祉用具のレンタルなど利用者一人一人に合わせたサービスの提供を行っている		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 成年後見人制度についての相談に行ったり、包括支援センターとの協働も行っている。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 緊急時の対応がスムーズにいくようにかかりつけ医とは綿密に連絡が取れており、連携が取れている。 (外部評価) 利用者や家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診を支援している。母体医療機関の医師による往診も月に2回行われている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 主治医及び脳神経内科がいる。尚且つ毎日主治医にバイタルを報告している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ホームの職員に看護師も従事している為、日常の健康管理ができ医療面でも支援出来ている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時も情報交換がスムーズにいくように介護要約書や電話連絡にて綿密に連絡が取れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 先生や管理者、ケアマネ、介護職員と家族の間でカンファレンスを行い本人や家族の意向が取り入れられるように配慮し方針を立てている。 (外部評価) 母体医療機関による訪問診療、訪問看護で、利用者や家族の意向に沿った重度化や終末期の対応が可能である。「看取り介護の指針」を作成して、ホームには看護職員も勤務している。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 先生や管理者、ケアマネ、介護職員と家族の間でカンファレンスを行い、出きるだけ本人や家族の希望を考慮したケアプラン作りを行っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 環境の変化によるダメージが最小限になるように、ホームでの生活ぶりやその人の好きなこと好きな食べ物などの些細な事まで情報を文書化して報告し、連携をとっている。また、いつでも連絡をしやすいような雰囲気、関係作りに努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 利用者さんに対して尊敬尊重した態度、言葉使いで接するように心掛けている。職員同士で話し合うようにして態度には心配りをしている。 (外部評価) 一人ひとりのプライドを大事にしたやさしい声かけを行っている。居室でのポータブルトイレ使用時やおむつ交換時は入口のドアを閉め、利用者の状況によっては長めのカーテンを入口に設置し、プライバシーへの配慮をしている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 「受容」の姿勢を心掛け利用者さんの意見に耳を傾けている。また本人の好きなことや、やりたい事をケアプランにも盛り込んで日課として取り組んでいる。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事やお風呂、就寝など一人一人の体調、ペースに合わせて声かけし勧めている。 (外部評価) 入浴、食事、就寝等は利用者のペースを大切にした支援をしている。昼食時、居室で熟睡の利用者を無理に起こすことなく、少し時間を遅らせて食事ができるよう支援していた。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 家族さんと美容室に行かれている。家族さんが来所し、散髪をしてくださる。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員も一緒に食事を摂っており、おかずの感想を聞く等コミュニケーションをとりながら楽しく食事が出来ている。食事の片づけを利用者さんも手伝ってくださる。 (外部評価) 職員は利用者の能力が十分に発揮できるよう支援している。利用者同士が会話を楽しんだり、静かに食べる利用者もいるが温かい雰囲気での食事風景である。利用者と職員は、共に準備、片付けも行っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲酒や喫煙をされる利用者は現在いない。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) プライバシーには十分配慮し、本人の出来る力を生かした排泄の支援を心掛けている。(日中はトイレの声かけ誘導を行なう、等)		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴前に利用者さんに声かけをし時間や順番など本人の希望に添えるようにしている。また、入浴後の髪の手入れなどオシャレに気を付けている。 (外部評価) 時間帯はほぼ決まっているが、入浴の順番などは一人ひとりの希望が叶うよう配慮している。浴室には足浴器具を置き、利用者はいつでも使用できる。介護度の高い利用者はリフトを使用しての入浴を支援している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝時、無理に居室に入ってもらわずご本人の眠たいときに居室に誘導するなど、利用者さんのペースに合わせている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 歌がお好きな利用者さんには歌を歌ってもらったり、家事がお好きな利用者さんには洗濯物をたたんでももらったり、役割を見つけて支援している (外部評価) 歌を唄ったり、野菜づくりをしたり、料理や洗濯物たたみを行う等の楽しみや役割を一人ひとりの力に応じて支援している。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 認知症の進行に伴い、お金の管理が自身でできる方がいない。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気のよい日は外に散歩したり、近くのお寺におまいりにいったりしている。 (外部評価) 近所のコンビニ、スーパーでの買い物の支援をしたり、近くの寺の縁日に出かけたり、地域でのイベントに参加する等の外出支援をしている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族さんと一緒に外出も自由にしてもらっている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望がある時は、電話をしていただいている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族さんは随時気軽に訪問されている。利用者さんとホールや居室にて自由にお話をしてもらっている。職員からも日常の様子を報告しコミュニケーションをとっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 精神興奮時の利用者さんや暴力行為のみられる利用者さんに対して、身体拘束をしない方法での対応を心掛けている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の鍵は掛けず、センサーを設置している。職員がそれとなく気を配るようにしている。 (外部評価) 居室や日中の玄関には、鍵はかけられていない。玄関の人の出入りはセンサーで分かるようになっている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 常に職員の目の届く所に利用者さんがいるように、職員が移動し、またそれが不自然にならないよう位置や動作に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品は利用者さんの目の届かない所にまとめて保管している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故報告書や「ひやりはっと」報告書を作成し、職員がみな一緒に反省点や対策を検討し再発防止に努めている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時の対応についてマニュアルがあり、職員はこれに目を通している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防訓練を定期的に行っている。 (外部評価) 防災訓練は年に2回、消防署にも連絡して行っている。防災器具の点検に力を入れていて、スプリンクラーも設置予定である。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 利用者さんの日頃の状況をご家族の方に詳しく報告し、また起こりうる危険に対してはどのような対応を行っているのか職員間で検討した上で対策を報告している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日バイタル、水分摂取量、食事量等を測定し少しでも変化があれば管理者に報告し対応している。又利用者本人を日常的によく観察し少しでもサインがあれば見逃さないように努めている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ADLの低下により、服薬の管理、服薬介助を職員が行っている。一人一人の薬剤情報を把握し細心の注意を払って服用の対応をしている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) Dr.に相談し、便秘予防、排便コントロールを行っている。飲水チェックや食材に工夫している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者さんの状態に応じた口腔ケアを実施している。(クルリーナブラシの活用や舌用ブラシの使用、ガーゼでの清拭等)		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バイタル表に毎回食事摂取量、水分量を記入し1日のトータル量も算出し状態把握に努めている。 (外部評価) 母体医療機関の栄養士がたてた献立を基本に、食事を提供している。利用者の状態により、きざみ食やミキサー食での摂取も行われ、胃ろうの方にも適切に対応している。職員は利用者の状態や力量に応じた支援を行い、食事摂取量や水分量を毎回チェックしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 疥癬、MRSA、肝炎などは感染症対策マニュアルを独自に作成している。インフルエンザは予防接種を行っている。研修会に参加し、ホーム内でも対策会議を開いたりしている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 感染症の研修に出たりマニュアルを作成し、清潔保持に気を配り日常的に衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 常に環境整備に心掛け、家庭的な雰囲気を心掛けている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者さんの目の届く位置に季節の飾りを職員や利用者さんと作って飾ったり、グループホーム新聞を掲載したりして、明るくいい雰囲気になるよう配慮している。		
			(外部評価) 玄関周りには季節の草花があり、居間には家庭的なソファや見やすい時計、カレンダーを置いている。その他の共用空間も不快な音や匂いもなく、清潔で居心地良い空間になっている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファに座りくつろいでいたりテーブルで話をしていただいている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご自分で使っていた物やテレビ、ラジオなど利用者さんの馴染みの物を置いたり、写真を飾ったりして配慮している。		
			(外部評価) 居室には利用者の使い慣れたベッド、椅子、時計等が持ち込まれ、手作りの品が飾られていて、居心地よく過ごせる部屋になっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 扇風機やエアコンを使い分け自然の風や温度に気を配っている。また換気をこまめに行い、室内の空気にも配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ、廊下、浴室に手すりを設置し工夫している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人一人の状態に合わせて本人が落ち着いて過ごせる様配慮し、職員が常に見守りを行っている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 施設の前に花壇や畑を作り利用者さんも水遣りや野菜の収穫に参加し楽しんでもらえる場面を作っている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の 2/3 くらいの 評価) 3 利用者の 1/3 くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者一人一人の希望を重視し、まず本人の話に傾聴する姿勢で介護に取り組んでいる。職員間でその都度話し合っている。話のできない方は、変化を感じ取り職員で話し合っている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に 1 回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	毎回食事の際は、一緒にテーブルで職員もコミュニケーションをとりながら食事を摂っている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2/3 くらいが 評価) 3 利用者の 1/3 くらいが 4 ほとんどいない	一人一人のペース、体調に合わせて声かけをし、支援を行っている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2/3 くらいが 評価) 3 利用者の 1/3 くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんが活躍する場面、楽しそうにする場面を見つけ出しそれをケアプランに盛り込んで実行している。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2/3 くらいが 評価) ③ 利用者の 1/3 くらいが 4 ほとんどいない	外出が困難な利用者さんが殆どだが、公園や家族さんとの外出（美容室）など利用者さんの希望に添えるようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2/3 くらいが 評価) 3 利用者の 1/3 くらいが 4 ほとんどいない	毎日のバイタルチェックと病院への報告、緊急時の病院との連携が図れている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2/3 くらいが 評価) 3 利用者の 1/3 くらいが 4 ほとんどいない	利用者さん一人一人の体調や感情に合わせて生活支援を行っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の 2/3 くらいと 評価) 3 家族の 1/3 くらいと 4 ほとんどできていない	家族さんが来所された時には、利用者さんのホームでの生活状況などを報告している。また質問や疑問、要望されたことに関しては、迅速に対応している。また、なにも要望されない家族さんも多い。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 ② 数日に1回程度 評価) 3 たまに 4 ほとんどない	地域行事には参加の案内の声を掛けてくださる。また、推進運営会議では必ず地域住民の方が参加してくださっている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域住民の代表の方が、運営推進会議にて普段聞けない貴重な意見を述べてくださっている。
98	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんと一緒に笑ったり、楽しんだり、共に生活を送っているような気持ちで働いている。また、職員間も協力し仲良く困ったことがあれば相談しあう関係である。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者からの不平不満の声はなく、ゆったりとした生活が送れている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族さんからの苦情は殆どない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

健康管理が行き届いている。職員がまじめに努力し精一杯対応していて好感が持てる。精神面、健康面、トータルでサポートしてくれる。楽しく笑いあいながら毎日を過ごしている。家庭的で寂しくなく温和に過ごされている。環境もよく落ち着いた雰囲気もあり明るいホームである。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームつじい

(ユニット名)

東館1階

記入者(管理者)

氏 名

辻井浩子

評価完了日

2007年7月20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 理念に地域密着したグループホームを目指すことをあげ、実践を促している。 (外部評価) 利用者の思いを尊重し、地域で暮していくことを意識した理念である。この理念は各ユニットの居間に、分かりやすく、倫理綱領等と共に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ホール内に掲示しミーティング等で促し、管理者と話し合いを行っている。 (外部評価) 管理者と職員は、利用者の支援にあたり、理念を意識して実践するよう心がけている。また、支援の振り返り時にも理念と関連づけることにしている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 各館見えやすい所に掲示し、家族や地域の方に尋ねられても説明出来る様に心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 農作業を手伝ってくださったり、「いのこ」の子供達を連れて来てくださったり、親睦関係がある。通りがかりに手作りの品など届けてくださる。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地方祭、敬老会などに声を掛けてくださっているのだから参加し地域の方と交流を図るようにしている。 (外部評価) ホームは自治会に出席し、敬老会、地方祭、亥の子等の行事にも参加している。地元の人々とも交流があり、収穫した野菜や手作りの置物をいただくこともある。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 介護教室など市町事業を協力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価を受けた事に関して、話し合い今後更に精進していくことを職員同士で再確認しあっている。 (外部評価) 運営者、管理者、職員は評価の意義を十分理解していて、前回の評価をふまえ、改善にとりくんでいる。また、全職員が関わって自己評価を行うことで、日頃のケアの振り返りができると考えている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営委員会で出た貴重な意見を取り上げ職員間で話し合っている。また、報告書を作成し会議参加者に配布している。 (外部評価) 2か月に1回、運営推進会議を行っている。会議には毎回違う利用者と家族が出席することになっている。そして、多くの利用者や家族が会議について理解し、意見を述べる機会としている。会議での意見等はサービスの質の向上に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 同一事業所内なので十分連携が図れている (外部評価) 市からホーム関連の業務を委託された地域包括支援センターが近くにあり、このセンターと連携することで、サービスの質向上に取り組んでいる。利用者の諸手続きで市に出向き、話し合うこともある。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、学んでいる。またそれを持ち帰って勉強会を開いている。制度の内容説明をしている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会の参加し、資料に職員全員が目を通し高齢者の方の尊厳についての意識を再確認しあっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約、解約の際は管理者、ケアマネや現場の職員が詳しく説明をし質問にも対応している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付は管理者が対応している。相談、苦情内容は管理者、計画作成担当者間で報告しあっている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 月に一回個人状況を書いたお手紙を送っている。面会時に日常の様子をお話している。お小遣い帳のコピーを手紙と一緒に送付している。異常があった時には電話で直ぐに連絡している。 (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態及び金銭出納帳・領収書のコピーを毎月家族に送付している。また、月刊のホーム便りも家族に送っていて、この紙面で異動職員の紹介等も行っている。家族の面会時にも報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付は管理者が対応している。相談、苦情内容は管理者、計画作成担当者間で報告しあっている。 (外部評価) 家族等の意見は、面会時やご意見箱、介護計画作成時や運営推進会議に家族が参加した時に伺い、運営に反映させている。苦情・相談窓口は内部及び外部の公的機関を明記し、家族等にも説明している。家族会は家族の参加が得られず、開催していない。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者と職員間で、ミーティングや申し送りで意見する場や話し合いの場を多く持っている		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者さんの状態等により勤務時間の変更や勤務体制を組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 必要最小限に職員の移動は抑えて勤務を組んでいる。 (外部評価) ホームは職員の異動を最小限にしたいと考えている。異動の時は、離職者と採用者の重複勤務を行ったり、ケアの方法等を確認し合うことで、利用者へのダメージを防ぐよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ミーティングやカンファレンス時に対応方法など助言し、勉強会も行っている。外部の研修会にもどんどん参加している。管理者が直接指導することもある。 (外部評価) 運営者は管理者や職員の育成に学習が大事と考えていて、ホーム内での月1回の勉強会や外部での研修会参加を奨励している。外部での研修会は職員の希望を重視し、参加を勧めている。研修終了後は報告書を提出し、他の職員にも伝達している。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 各種講習会や勉強会の案内には積極的に参加し報告会も開いている。お互いに意見交換を行い交流を深めている。 (外部評価) 管理者や職員は、地域の他ホームと見学し合うことで相互評価を行い、学習したことを日頃の支援に役立てている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 勤務時間以外に電話や会食等で個人的に悩みの聴取を行っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員同士、お互いが協力し合い時には競い合って働けるような勤務体制を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) まず本人の話をよく聞き、相づちを打ち、こちらでも理解している事を分かってもらうようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 管理者やケアマネ、現場の職員等と家族間で綿密にモニタリングを行い家族の方の不安や心配事を聞き取るようにしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族さんの質問や相談内容にはその日のうちに返答が出来る様に迅速に対応している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ショートステイをまず利用し雰囲気を覚えてもらったり、デイケアを利用していた時の顔なじみの職員が対応したりし不安感が少しでも緩和されるように対応している。 (外部評価) 入居に先立ち、同系列の事業所のデイサービスやショートステイを利用して、集団で過ごす雰囲気に慣れてもらう工夫をしている。入居後も、全員で食事することに戸惑う利用者には居室で食べてもらう等の配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 一緒にお菓子を作ったり、料理を教えてもらったりと共に生活し楽しみや喜びを分かち合える場面を作っている (外部評価) 職員は利用者と共に、歌ったり、野菜作りや家事を楽しみながら行っている。時には利用者から調理の仕方やコツを教わる等して、一緒に料理を作っている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の生活状況を家族に伝えたり、話をすることでコミュニケーションをとり信頼関係を作り本人を支える関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者と家族との交流支援を行っている。気軽に訪問できる雰囲気作り、ホームの行事の参加や歓迎、関係再構築の支援を行っている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者さんの生活暦を本人や家族から聞き、把握しそれを中心にした話題やお楽しみ会を開いたりしている		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者一人一人の性格を判断し、仲良くコミュニケーションを取れる場面が多くもてるように配慮している。ホールにてゆっくり過ごせる雰囲気作りをしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 利用終了の際も、きめ細かく引継ぎ説明しアフターフォローにも気を付けている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 何事に関しても出来る限り利用者さんに選択してもらえるように心掛けている。 (外部評価) できるだけ利用者が選べる場面づくりを心がけ、希望を出してもらおうよう努めている。テレビの画面を見ていた利用者が「たこ焼きを食べたい」と言うと、職員が「次は、たこ焼きを作ろう」と答えていた。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者さんの生活暦をミーティングで話し職員が全員把握するようにしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個人毎にADL表やフェースシートを作成し、全員が目を通せるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月おきに（入退院などがあればその都度）ケアプランを見直している。その際は管理者、主治医、ケアマネ、介護職、時には家族さんも出席し話し合っている。		
			(外部評価) 介護計画は入居前の事業所の介護要約、生活歴などを参考に、職員による話し合いで作成している。利用者にも参加を促し、前もって家族にも連絡して、話し合いに出席してもらうよう努めている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 入退院などがあればその都度ケアプランを見直している。その際は管理者、主治医、ケアマネ、介護職、時には家族さんも出席し話し合っている。		
			(外部評価) 介護計画の見直しは3か月に1回行っているが、利用者や家族の状況が変化した場合はその都度見直し、現状に沿った計画を作成している。	※	介護計画は利用者や家族の状況が変化した時に見直す他、安定している利用者の場合も月に1回程度は、新鮮な目で状況を確認し、見直すことを期待する。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日、職員が利用者一人一人の経過表やカルテを記入し、全員が状況把握に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人や家族さんの希望で、歩行訓練や立位訓練、生活リハビリを目的としてデイケアにお連れしている。		
			(外部評価) ホームは利用者の受診時の送迎、急な外出への対応、胃ろう設置に伴うケア、重度化への対応等の多機能性を活かした支援を行っている。	※	多機能性を活かした支援とは多種類のサービスの提供だけではなく、利用者や家族の暮らしの継続性を守る柔軟な支援であるので、日々変化する利用者や家族の状況に応じた、更なる支援を期待する。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期 待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 防災訓練の際には東温消防署から退院の人に来てもらい講習を受けたり、民生委員の方には推進運営委員会に毎回参加してもらったりしている		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他事業所とも連携を取り、福祉用具のレンタルなど利用者一人一人に合わせたサービスの提供を行っている		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 成年後見人制度についての相談に行ったり、包括支援センターとの協働も行っている。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 緊急時の対応がスムーズにいくようにかかりつけ医とは綿密に連絡が取れており、連携が取れている。 (外部評価) 利用者や家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診を支援している。母体医療機関の医師による往診も月に2回行われている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 主治医及び脳神経内科がいる。尚且つ毎日主治医にバイタルを報告している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ホームの職員に看護師も従事している為、日常の健康管理ができ医療面でも支援出来ている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時も情報交換がスムーズにいくように介護要約書や電話連絡にて綿密に連絡が取れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 先生や管理者、ケアマネ、介護職員と家族の間でカンファレンスを行い本人や家族の意向が取り入れられるように配慮し方針を立てている。 (外部評価) 母体医療機関による訪問診療、訪問看護で、利用者や家族の意向に沿った重度化や終末期の対応が可能である。「看取り介護の指針」を作成していて、ホームには看護職員も勤務している。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 先生や管理者、ケアマネ、介護職員と家族の間でカンファレンスを行い、出きるだけ本人や家族の希望を考慮したケアプラン作りを行っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 環境の変化によるダメージが最小限になるように、ホームでの生活ぶりやその人の好きなこと好きな食べ物などの些細な事まで情報を文書化して報告し、連携をとっている。また、いつでも連絡をしやすいような雰囲気、関係作りに努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 利用者さんに対して尊敬尊重した態度、言葉使いで接するように心掛けている。職員同士で話し合うようにして態度には心配りをしている。 (外部評価) 一人ひとりのプライドを大事にしたやさしい声かけを行っている。居室でのポータブルトイレ使用時やおむつ交換時は入口のドアを閉め、利用者の状況によっては長めのカーテンを入口に設置し、プライバシーへの配慮をしている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 「受容」の姿勢を心掛け利用者さんの意見に耳を傾けている。また本人の好きなことや、やりたい事をケアプランにも盛り込んで日課として取り組んでいる。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事やお風呂、就寝など一人一人のペースに合わせて声かけし勧めている。 (外部評価) 入浴、食事、就寝等は利用者のペースを大切にした支援をしている。昼食時、居室で熟睡の利用者を無理に起こすことなく、少し時間を遅らせて食事ができるよう支援していた。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理容師さんに出張していただき、理容・美容を利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員も一緒に食事を摂っており、おかずの感想を聞く等コミュニケーションをとりながら楽しく食事が出来ている。食事の片づけを利用者さんも手伝ってくださる。 (外部評価) 職員は利用者の能力が十分に発揮できるよう支援している。利用者同士が会話を楽しんだり、静かに食べる利用者もいるが温かい雰囲気での食事風景である。利用者と職員は、共に準備、片付けも行っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲酒や喫煙をされる利用者は現在いない。おやつは自分の好きなものを買いに行っている。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) プライバシーには十分配慮し、本人の出来る力を生かした排泄の支援を心掛けている。(日中はトイレの声かけ誘導を行なう、等)		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴前に利用者さんに声かけをし時間や順番など本人の希望に添えるようにしている。また、入浴後の髪の毛のセットなどオシャレに気を付けている。 (外部評価) 時間帯はほぼ決まっているが、入浴の順番などは一人ひとりの希望が叶うよう配慮している。浴室には足浴器具を置き、利用者はいつでも使用できる。介護度の高い利用者はリフトを使用しての入浴を支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 疲労時や倦怠感の訴えがある時、または興奮されたり落ち着きが無いとき等も声かけし、落ち着いていただけるよう休息して頂いています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 意思表示が出来ない方へは、生活歴などでいろいろ働きかけ何が楽しい、嬉しいのかを見極めていくように努めている。 (外部評価) 歌を唄ったり、野菜づくりをしたり、料理や洗濯物たたみを行う等の楽しみや役割を一人ひとりの力に応じて支援している。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人が使えない場合は職員が手助けしたり、代わりに買い物に行っている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 身体の調子の良い時には散歩に出たいといわれる方もいるので状態に応じて支援している。 (外部評価) 近所のコンビニ、スーパーでの買い物の支援をしたり、近くの寺の縁日に出かけたり、地域でのイベントに参加する等の外出支援をしている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 買い物など本人の希望に添えるよう時間や場所を聞いて支援している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状を書きたいといわれる利用者さんは職員がお手伝いしながら毎年書いて出されている。希望があれば本人に電話してもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族さんは随時気軽に訪問されている。利用者さんとホールや居室にて自由にお話をしてもらっている。職員からも日常の様子を報告しコミュニケーションをとっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 精神興奮時の利用者さんや暴力行為のみられる利用者さんに対して、身体拘束をしない方法での対応を心掛けている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の鍵は掛けず、センサーを設置している。職員がそれとなく気を配るようにしている。 (外部評価) 居室や日中の玄関には、鍵はかけられていない。玄関の人の出入りはセンサーで分かるようになっている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 常に職員の目の届く所に利用者さんがいるように、職員が移動し、またそれが不自然にならないよう位置や動作に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品は利用者さんの目の届かない所にまとめて保管している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故報告書や「ひやりはっと」報告書を作成し、職員がみな一緒に反省点や対策を検討し再発防止に努めている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時の対応についてマニュアルがあり、職員はこれに目を通している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	(自己評価) 消防訓練を定期的に行っている。 (外部評価) 防災訓練は年に2回、消防署にも連絡して行っている。防災器具の点検に力を入れていて、スプリンクラーも設置予定である。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 利用者さんの日頃の状況をご家族の方に詳しく報告し、また起こりうる危険に対してはどのような対応を行っているのか職員間で検討した上で対策を報告している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日バイタル、水分摂取量、食事量等を測定し少しでも変化があれば管理者に報告し対応している。又利用者本人を日常的によく観察し少しでもサインがあれば見逃さないように努めている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ADLの低下により、服薬の管理、服薬介助を職員が行っている。一人一人の薬剤情報を把握し細心の注意を払って服用の対応をしている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) Dr.に相談し、便秘予防、排便コントロールを行っている。飲水チェックや食材に工夫している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者さんの状態に応じた口腔ケアを実施している。(クルリーナブラシの活用やガーゼでの清拭等)		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バイタル表に毎回食事摂取量、水分量を記入し1日のトータル量も算出し状態把握に努めている。 (外部評価) 母体医療機関の栄養士がたてた献立を基本に、食事を提供している。利用者の状態により、きざみ食やミキサー食での摂取も行われ、胃ろうの方にも適切に対応している。職員は利用者の状態や力量に応じた支援を行い、食事摂取量や水分量を毎回チェックしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 疥癬、MRSA、肝炎などは感染症対策マニュアルを独自に作成している。インフルエンザは予防接種を行っている。研修会に参加し、ホーム内でも対策会議を開いたりしている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 感染症の研修に出たりマニュアルを作成し、清潔保持に気を配り日常的に衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 常に環境整備に心掛け、家庭的な雰囲気を心掛けている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者さんの目の届く位置に季節の飾りを職員や利用者さんと作って飾ったり、グループホーム新聞を掲載したりして、明るくい雰囲気になるよう配慮している。 (外部評価) 玄関周りには季節の草花があり、居間には家庭的なソファや見やすい時計、カレンダーを置いている。その他の共用空間も不快な音や匂いもなく、清潔で居心地良い空間になっている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファに座りくつろいでいただいたりテーブルで話をしていただいている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご自分で使っていた物やテレビ、ラジオなど利用者さんの馴染みの物を置いたり、写真を飾ったりして配慮している。 (外部評価) 居室には利用者の使い慣れたベッド、椅子、時計等が持ち込まれ、手作りの品が飾られていて、居心地よく過ごせる部屋になっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 扇風機やエアコンを使い分け自然の風や温度に気を配っている。また換気をこまめに行い、室内の空気にも配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ、廊下、浴室に手すりを設置し工夫している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人一人の状態に合わせて本人が落ち着いて過ごせる様配慮し、職員が常に見守りを行っている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 施設の前に花壇や畑を作り利用者さんも水遣りや野菜の収穫に参加し楽しんでもらえる場面を作っている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の 2/3 くらいの 評価) 3 利用者の 1/3 くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者一人一人の希望を重視し、まず本人の話に傾聴する姿勢で介護に取り組んでいる。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に 1 回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	毎回食事の際は、一緒にテーブルで職員もコミュニケーションをとりながら食事を摂っている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2/3 くらいが 評価) 3 利用者の 1/3 くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんは職員のペースではなく自分がやりたい時間、タイミングで、生活を行っている
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2/3 くらいが 評価) 3 利用者の 1/3 くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんが活躍する場面、楽しそうにする場面を見つけ出しそれをケアプランに盛り込んで実行している。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2/3 くらいが 評価) ③ 利用者の 1/3 くらいが 4 ほとんどいない	加齢に伴い外出が困難な利用者さんが増えてきているが利用者の希望に添えるようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2/3 くらいが 評価) 3 利用者の 1/3 くらいが 4 ほとんどいない	毎日のバイタルチェックと病院への報告、緊急時の病院との連携が図れている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2/3 くらいが 評価) 3 利用者の 1/3 くらいが 4 ほとんどいない	食事や入浴など利用者さん一人一人の気分や体調に合わせて生活支援を行っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の 2/3 くらいと 評価) 3 家族の 1/3 くらいと 4 ほとんどできていない	家族さんが来所された時には、利用者さんのホームでの生活状況などを報告している。また質問や疑問、要望されたことに関しては、迅速に対応している。また、なにも要望されない家族さんも多い。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 ② 数日に1回程度 評価) 3 たまに 4 ほとんどない	地域行事には参加の案内の声を掛けてくださる。また、推進運営会議では必ず地域住民の方が参加してくださっている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域住民の代表の方が、運営推進会議にて普段聞けない貴重な意見を述べてくださっている。
98	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんと一緒に笑ったり、楽しんだり、共に生活を送っているような気持ちで働いている。また、職員間も協力し仲良く従事できている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者からの不平不満の声はなく、ゆったりとした生活が送れていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族さんからの苦情は殆どない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

健康管理が行き届いている。職員がまじめに努力し精一杯対応していて好感が持てる。精神面、健康面、トータルでサポートしてくれる。楽しく笑いあいながら毎日を過ごしている。家庭的で寂しくなく温和に過ごされている。環境もよく落ち着いた雰囲気もあり明るいホームである。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームつじい

(ユニット名)

東館2階

記入者(管理者)

氏 名

辻井浩子

評価完了日

2007年7月20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 理念に地域密着したグループホームを目指すことをあげ、実践を促している。		
			(外部評価) 利用者の思いを尊重し、地域で暮していくことを意識した理念である。この理念は各ユニットの居間に、分かりやすく、倫理綱領等と共に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ホール内に掲示しミーティング等で促し、管理者と話し合いを行っている。		
			(外部評価) 管理者と職員は、利用者の支援にあたり、理念を意識して実践するよう心がけている。また、支援の振り返り時にも理念と関連づけることにしている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 各館見えやすい所に掲示し、家族や地域の方に尋ねられても説明出来る様に心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 農作業を手伝ってくださったり、「いのこ」の子供達を連れて来てくださったり、親睦関係がある。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地方祭、敬老会などに声を掛けてくださっている。		
			(外部評価) ホームは自治会に出席し、敬老会、地方祭、亥の子等の行事にも参加している。地元の人々とも交流があり、収穫した野菜や手作りの置物をいただくこともある。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 介護教室など市町事業を協力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価を受けた事に関して、話し合い今後更に精進していくことを職員同士で再確認しあっている。 (外部評価) 運営者、管理者、職員は評価の意義を十分理解していて、前回の評価をふまえ、改善にとりくんでいる。また、全職員が関わって自己評価を行うことで、日頃のケアの振り返りができると考えている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営委員会で出た貴重な意見を取り上げ職員間で話し合っている。また、報告書を作成し会議参加者に配布している。 (外部評価) 2か月に1回、運営推進会議を行っている。会議には毎回違う利用者と家族が出席することになっている。そして、多くの利用者や家族が会議について理解し、意見を述べる機会としている。会議での意見等はサービスの質の向上に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 同一事業所内なので十分連携が図れている (外部評価) 市からホーム関連の業務を委託された地域包括支援センターが近くにあり、このセンターと連携することで、サービスの質向上に取り組んでいる。利用者の諸手続きで市に出向き、話し合うこともある。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、学んでいる。 またそれを持ち帰って勉強会を開いている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会の参加し、資料に職員全員が目を通し高齢者の方の尊厳についての意識を再確認しあっている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約、解約の際は管理者、ケアマネや現場の職員が詳しく説明をし質問にも対応している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付は管理者が対応している。相談、苦情内容は管理者、計画作成担当者間で報告しあっている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 月に一回個人状況を書いたお手紙を送っている。面会時に日常の様子をお話している。 お小遣い帳のコピーを手紙と一緒に送付している。		
			(外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態及び金銭出納帳・領収書のコピーを毎月家族に送付している。また、月刊のホーム便りも家族に送っていて、この紙面で異動職員の紹介等も行っている。家族の面会時にも報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付は管理者が対応している。相談、苦情内容は管理者、計画作成担当者間で報告しあっている。		
			(外部評価) 家族等の意見は、面会時やご意見箱、介護計画作成時や運営推進会議に家族が参加した時に伺い、運営に反映させている。苦情・相談窓口は内部及び外部の公的機関を明記し、家族等にも説明している。家族会は家族の参加が得られず、開催していない。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者と職員間で、ミーティングや申し送りで見える場や話し合いの場を多く持っている		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者さんの状態等により勤務時間の変更や勤務体制を組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 必要最小限に職員の移動は抑えて勤務を組んでいる。 (外部評価) ホームは職員の異動を最小限にしたいと考えている。異動の時は、離職者と採用者の重複勤務を行ったり、ケアの方法等を確認し合うことで、利用者へのダメージを防ぐよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ミーティングやカンファレンス時に対応方法など助言し、勉強会も行っている。外部の研修会にもどんどん参加している。管理者が直接指導することもある。 (外部評価) 運営者は管理者や職員の育成に学習が大事と考えていて、ホーム内での月1回の勉強会や外部での研修会参加を奨励している。外部での研修会は職員の希望を重視し、参加を勧めている。研修終了後は報告書を提出し、他の職員にも伝達している。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 各種講習会や勉強会の案内には積極的に参加し報告会も開いている。お互いに意見交換を行い交流を深めている。 (外部評価) 管理者や職員は、地域の他ホームと見学し合うことで相互評価を行い、学習したことを日頃の支援に役立てている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 勤務時間以外に電話や会食等で個人的に悩みの聴取を行っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員同士、お互いが協力し合い時には競い合って働けるような勤務体制を心掛けている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期 待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) まず本人の話をよく聞き、相づちを打ち、こちらでも理解している事を分かってもらうようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 管理者やケアマネ、現場の職員等と家族間で綿密にモニタリングを行い家族の方の不安や心配事を聞き取るようにしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族さんの質問や相談内容にはその日のうちに返答が出来る様に迅速に対応している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ショートステイをまず利用し雰囲気を覚えてもらったり、デイケアを利用していた時の顔なじみの職員が対応したりし不安感が少しでも緩和されるように対応している。 (外部評価) 入居に先立ち、同系列の事業所のデイサービスやショートステイを利用して、集団で過ごす雰囲気に慣れてもらう工夫をしている。入居後も、全員で食事することに戸惑う利用者には居室で食べてもらう等の配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 一緒にお菓子を作ったり、料理を教えてもらったりと共に生活し楽しみや喜びを分かち合える場面を作っている (外部評価) 職員は利用者と共に、歌ったり、野菜作りや家事を楽しみながら行っている。時には利用者から調理の仕方やコツを教わる等して、一緒に料理を作っている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホームの行事や運営推進委員会の参加の声かけを行っている。面会時に利用者さんの普段の生活を報告したり、手紙にて月に一回報告している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者と家族との交流支援を行っている。気軽に訪問できる雰囲気作り、ホームの行事の参加や歓迎、関係再構築の支援を行っている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者さんの生活暦を本人や家族から聞き、把握しそれを中心にした話題やお楽しみ会を開いたりしている		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者一人一人の性格を判断し、仲良くコミュニケーションを取れる場面が多くもてるように配慮している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 利用終了の際も、きめ細かく引継ぎ説明しアフターフォローにも気を付けている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 何事に関しても出来る限り利用者さんに選択してもらえるように心掛けている。		
			(外部評価) できるだけ利用者が選べる場面づくりを心がけ、希望を出してもらうよう努めている。テレビの画面を見ていた利用者が「たこ焼きを食べたい」と言うと、職員が「次は、たこ焼きを作ろう」と答えていた。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者さんの生活暦を把握し、それを中心にした話題や話し掛けを行ったり、お楽しみ会やお誕生日会に盛り込んでいる。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個人毎にADL表やフェースシートを作成し、全員が目を通せるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月おきに（入退院などがあればその都度）ケアプランを見直している。その際は管理者、主治医、ケアマネ、介護職、時には家族さんも出席し話し合っている。		
			(外部評価) 介護計画は入居前の事業所の介護要約、生活歴などを参考に、職員による話し合いで作成している。利用者にも参加を促し、前もって家族にも連絡して、話し合いに出席してもらうよう努めている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 入退院などがあればその都度ケアプランを見直している。その際は管理者、主治医、ケアマネ、介護職、時には家族さんも出席し話し合っている。	※	介護計画は利用者や家族の状況が変化した時に見直す他、安定している利用者の場合も月に1回程度は、新鮮な目で状況を確認し、見直すことを期待する。
			(外部評価) 介護計画の見直しは3か月に1回行っているが、利用者や家族の状況が変化した場合はその都度見直し、現状に沿った計画を作成している。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日、職員が利用者一人一人の経過表やカルテを記入し、全員が状況把握に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人や家族さんの希望で、歩行訓練や立位訓練、生活リハビリを目的としてデイケアにお連れしている。	※	多機能性を活かした支援とは多種類のサービスの提供だけではなく、利用者や家族の暮らしの継続性を守る柔軟な支援であるので、日々変化する利用者や家族の状況に応じた、更なる支援を期待する。
			(外部評価) ホームは利用者の受診時の送迎、急な外出への対応、胃ろう設置に伴うケア、重度化への対応等の多機能性を活かした支援を行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期 待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 防災訓練の際には東温消防署から退院の人に来てもらい講習を受けたり、民生委員の方には推進運営委員会に毎回参加してもらったりしている		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他事業所とも連携を取り、福祉用具のレンタルなど利用者一人一人に合わせたサービスの提供を行っている		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 成年後見人制度についての相談に行ったり、包括支援センターとの協働も行っている。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 緊急時の対応がスムーズにいくようにかかりつけ医とは綿密に連絡が取れており、連携が取れている。 (外部評価) 利用者や家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診を支援している。母体医療機関の医師による往診も月に2回行われている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 主治医及び脳神経内科がいる。尚且つ毎日主治医にバイタルを報告している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ホームの職員に看護師も従事している為、日常の健康管理ができ医療面でも支援出来ている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時も情報交換がスムーズにいくように介護要約書や電話連絡にて綿密に連絡が取れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 先生や管理者、ケアマネ、介護職員と家族の間でカンファレンスを行い本人や家族の意向が取り入れられるように配慮し方針を立てている。 (外部評価) 母体医療機関による訪問診療、訪問看護で、利用者や家族の意向に沿った重度化や終末期の対応が可能である。「看取り介護の指針」を作成していて、ホームには看護職員も勤務している。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 先生や管理者、ケアマネ、介護職員と家族の間でカンファレンスを行い、出きるだけ本人や家族の希望を考慮したケアプラン作りを行っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 環境の変化によるダメージが最小限になるように、ホームでの生活ぶりやその人の好きなこと好きな食べ物などの些細な事まで情報を文書化して報告し、連携をとっている。また、いつでも連絡をしやすいような雰囲気、関係作りに努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 利用者さんに対して尊敬尊重した態度、言葉使いで接するように心掛けている。職員同士で話し合うようにして態度には心配りをしている。 (外部評価) 一人ひとりのプライドを大事にしたやさしい声かけを行っている。居室でのポータブルトイレ使用時やおむつ交換時は入口のドアを閉め、利用者の状況によっては長めのカーテンを入口に設置し、プライバシーへの配慮をしている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 「受容」の姿勢を心掛け利用者さんの意見に耳を傾けている。また本人の好きなことや、やりたい事をケアプランにも盛り込んで日課として取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事やお風呂、就寝など一人一人のペースに合わせて声かけし勧めている。 (外部評価) 入浴、食事、就寝等は利用者のペースを大切にした支援をしている。昼食時、居室で熟睡の利用者を無理に起こすことなく、少し時間を遅らせて食事ができるよう支援していた。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理容師さんに出張していただき、理容・美容を利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員も一緒に食事を摂っており、おかずの感想を聞く等コミュニケーションをとりながら楽しく食事が出来ている。食事の片づけを利用者さんも手伝ってくださる。 (外部評価) 職員は利用者の能力が十分に発揮できるよう支援している。利用者同士が会話を楽しんだり、静かに食べる利用者もいるが温かい雰囲気での食事風景である。利用者と職員は、共に準備、片付けも行っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲酒や喫煙をされる利用者は現在いない。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) プライバシーには十分配慮し、本人の出来る力を生かした排泄の支援を心掛けている。(日中はトイレの声かけ誘導を行なう、等)		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴前に利用者さんに声かけをし時間や順番など本人の希望に添えるようにしている。また、入浴後の髪の設定などオシャレに気を付けている。 (外部評価) 時間帯はほぼ決まっているが、入浴の順番などは一人ひとりの希望が叶うよう配慮している。浴室には足浴器具を置き、利用者はいつでも使用できる。介護度の高い利用者はリフトを使用しての入浴を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 疲労時や倦怠感の訴えがある時、または興奮されたり落ち着きが無いとき等も声かけし、落ち着いていただけるよう休息して頂いています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 家事が好きな利用者さんには、料理のお手伝いや洗濯たたみなどのお手伝いをしてもらったり、畑仕事好きな利用者さんには一緒に野菜の収穫をしてもらったりと役割を見つけて提供している		
			(外部評価) 歌を唄ったり、野菜づくりをしたり、料理や洗濯物たたみを行う等の楽しみや役割を一人ひとりの力に応じて支援している。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 近くのスーパーに行き、自分のお小遣いで好きなものを購入できる機会を持たせている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気のよい日は外に散歩したり、近くのお寺におまいりにいったりしている。		
			(外部評価) 近所のコンビニ、スーパーでの買い物の支援をしたり、近くの寺の縁日に出かけたり、地域でのイベントに参加する等の外出支援をしている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族さんと一緒に外出も自由にしてもらっている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状を書きたいといわれる利用者さんは職員がお手伝いしながら毎年書いて出されている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族さんは随時気軽に訪問されている。利用者さんとホールや居室にて自由にお話をしてもらっている。職員からも日常の様子を報告しコミュニケーションをとっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 精神興奮時の利用者さんや暴力行為のみられる利用者さんに対して、身体拘束をしない方法での対応を心掛けている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の鍵は掛けず、センサーを設置している。職員がそれとなく気を配るようにしている。 (外部評価) 居室や日中の玄関には、鍵はかけられていない。玄関の人の出入りはセンサーで分かるようになっている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 常に職員の目の届く所に利用者さんがいるように、職員が移動し、またそれが不自然にならないよう位置や動作に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品は利用者さんの目の届かない所にまとめて保管している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故報告書や「ひやりはっと」報告書を作成し、職員がみな一緒に反省点や対策を検討し再発防止に努めている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時の対応についてマニュアルがあり、職員はこれに目を通している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	(自己評価) 消防訓練を定期的に行っている。 (外部評価) 防災訓練は年に2回、消防署にも連絡して行っている。防災器具の点検に力を入れていて、スプリンクラーも設置予定である。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 利用者さんの日頃の状況をご家族の方に詳しく報告し、また起こりうる危険に対してはどのような対応を行っているのか職員間で検討した上で対策を報告している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日バイタル、水分摂取量、食事量等を測定し少しでも変化があれば管理者に報告し対応している。又利用者本人を日常的によく観察し少しでもサインがあれば見逃さないように努めている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ADLの低下により、服薬の管理、服薬介助を職員が行っている。一人一人の薬剤情報を把握し細心の注意を払って服用の対応をしている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) Dr.に相談し、便秘予防、排便コントロールを行っている。飲水チェックや食材に工夫している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者さんの状態に応じた口腔ケアを実施している。(クルリーナブラシの活用やガーゼでの清拭等)		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バイタル表に毎回食事摂取量、水分量を記入し1日のトータル量も算出し状態把握に努めている。 (外部評価) 母体医療機関の栄養士がたてた献立を基本に、食事を提供している。利用者の状態により、きざみ食やミキサー食での摂取も行われ、胃ろうの方にも適切に対応している。職員は利用者の状態や力量に応じた支援を行い、食事摂取量や水分量を毎回チェックしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 疥癬、MRSA、肝炎などは感染症対策マニュアルを独自に作成している。インフルエンザは予防接種を行っている。研修会に参加し、ホーム内でも対策会議を開いたりしている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 感染症の研修に出たりマニュアルを作成し、清潔保持に気を配り日常的に衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 常に環境整備に心掛け、家庭的な雰囲気を心掛けている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者さんの目の届く位置に季節の飾りを職員や利用者さんと作って飾ったり、グループホーム新聞を掲載したりして、明るくい雰囲気になるよう配慮している。		
			(外部評価) 玄関周りには季節の草花があり、居間には家庭的なソファや見やすい時計、カレンダーを置いている。その他の共用空間も不快な音や匂いもなく、清潔で居心地良い空間になっている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファに座りくつろいでいたりテーブルで話をしていただいている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご自分で使っていた物やテレビ、ラジオなど利用者さんの馴染みの物を置いたり、写真を飾ったりして配慮している。		
			(外部評価) 居室には利用者の使い慣れたベッド、椅子、時計等が持ち込まれ、手作りの品が飾られていて、居心地よく過ごせる部屋になっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 扇風機やエアコンを使い分け自然の風や温度に気を配っている。また換気をこまめに行い、室内の空気にも配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ、廊下、浴室に手すりを設置し工夫している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人一人の状態に合わせて本人が落ち着いて過ごせる様配慮し、職員が常に見守りを行っている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 施設の前に花壇や畑を作り利用者さんも水遣りや野菜の収穫に参加し楽しんでもらえる場面を作っている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の 2/3 くらいの 評価) 3 利用者の 1/3 くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者一人一人の希望を重視し、まず本人の話に傾聴する姿勢で介護に取り組んでいる。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に 1 回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	毎回食事の際は、一緒にテーブルで職員もコミュニケーションをとりながら食事を摂っている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2/3 くらいが 評価) 3 利用者の 1/3 くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんは職員のペースではなく自分がやりたい時間、タイミングで、生活を行っている
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2/3 くらいが 評価) 3 利用者の 1/3 くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんが活躍する場面、楽しそうにする場面を見つけ出しそれをケアプランに盛り込んで実行している。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の 2/3 くらいが 評価) 3 利用者の 1/3 くらいが 4 ほとんどいない	加齢に伴い外出が困難な利用者さんが増えてきているが、花見に緑化センターやスーパーへの買い物など利用者の希望に添えるようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2/3 くらいが 評価) 3 利用者の 1/3 くらいが 4 ほとんどいない	毎日のバイタルチェックと病院への報告、緊急時の病院との連携が図れている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の 2/3 くらいが 評価) 3 利用者の 1/3 くらいが 4 ほとんどいない	食事や入浴など利用者さん一人一人の気分や体調に合わせて生活支援を行っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の 2/3 くらいと 評価) 3 家族の 1/3 くらいと 4 ほとんどできていない	家族さんが来所された時には、利用者さんのホームでの生活状況などを報告している。また質問や疑問、要望されたことに関しては、迅速に対応している。また、なにも要望されない家族さんも多い。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 ② 数日に1回程度 評価) 3 たまに 4 ほとんどない	地域行事には参加の案内の声を掛けてくださる。また、推進運営会議では必ず地域住民の方が参加してくださっている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域住民の代表の方が、運営推進会議にて普段聞けない貴重な意見を述べてくださっている。
98	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんと一緒に笑ったり、楽しんだり、共に生活を送っているような気持ちで働いている。また、職員間も協力し仲良く従事できている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者からの不平不満の声はなく、ゆったりとした生活が送れていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族さんからの苦情は殆どない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

健康管理が行き届いている。職員がまじめに努力し精一杯対応していて好感が持てる。精神面、健康面、トータルでサポートしてくれる。楽しく笑いあいながら毎日を過ごしている。家庭的で寂しくなく温和に過ごされている。環境もよく落ち着いた雰囲気もあり明るいホームである。